

発表者 渡部 正治

テーマ 「地域に生まれ、やがて地域を担う子どもたち」

皆さん、こんにちは。意見発表させていただきます渡部正治と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

中野生まれの中野育ちです。江古田小学校、第七中学校卒業です。出席番号は50音順で「わ」ですから、男子で一番最後でした。今日の発表も50音順で最後になりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

発表テーマは今、ご紹介いただきましたように「地域に生まれ、やがて地域を担う子どもたち」です。

初めに、簡単に自己紹介をさせていただきます。大学卒業後、国内損害保険会社と日米合弁の損害保険会社でビジネスマンをしておりました。既に会社は退職しておりますが、在職中から大学等で教鞭をとりつつ、民間の研究機関で研究員をしており、現在に至っています。画面下に記載しております「青字」が現職です。

それでは早速、発表に入らせていただきます。

我が国の人口構成は少子高齢化に突き進んでおり、15歳未満人口が毎年減少しております。グラフで傾向が分かると思いますが、この20年間で350万人、構成比で3ポイント減少しています。将来を担う児童・生徒、子どもたちを大切に守り育てる教育の重要性を改めて感じることができるグラフではないでしょうか。

では、子どもたちをどのように大切に守り、育て、教育していくかということですが、子どもを取り巻く環境である家庭、学校、地域、この3つの役割が大変大きいと思います。3者のそれぞれが連携といいますか、連絡を取り合い、協力し合ってお互いの至らないところ、不十分なところを補うことが理想だと思います。

学校はプロの先生方がいらっしゃるのですが、特段の大きな問題はないと考えられますが、家庭はどうでしょうか。いろいろな事情を抱えて、満足のいく環境が整っていないご家庭があるのではないのでしょうか。家庭が問題だからといって見放したり、突き放すようなことがあってはいけません。そこで重要な役割を担うのが地域社会だと思います。

「地域見守り隊」などという言葉がありますが、温かい目で見守りつつ、状況によっては助言、支援、援助といった手を差し伸べる行動をとり、子どもを決して孤独にしない、孤立させることなく育てていくのが地域社会なのではないのでしょうか。

国連で2015年に採択されたSDGs、持続可能な開発目標の2030アジェンダの前文に「誰一人取り残さないことを誓う」という1文がありま

す。地域社会がしっかり地域の子どもたちを見守り、育てていくことが重要であり、さらに言えば社会全体で、将来ある子どもたちを育てることが大切なこととなるのではないのでしょうか。

意見発表テーマの前段に「地域に育まれ」とあります。子どもたちに対する地域社会の大きな役割は、社会とは、世の中とはどのようなものであるかを体感させてあげる、肌で感じてもらい、うちの近所の地域はいいなと思ってもらうことではないのでしょうか。身近なところでは、登下校時に挨拶や声かけをする、祭礼などの地域行事に積極的に参加できるように間口を広げ、気軽に参加を募るとともに、参加の子どもたちには役割を与え、参加意識を高める。また、地域住民の中には様々な職種の方がいらっしゃると思いますが、その人たちに理解を求め、経験や知識、技能など、区民活動センターなどの場所で子どもたちと交流し、社会の在り方を学ばせる。地場産業や商店などの協力を得ることも視野に入れるべきだと思います。

家庭環境が恵まれない子どもへの声かけや相談に乗ること、特に心を閉ざした子どもが孤立しないための配慮と支援、子育て中の家庭が孤立しないような声かけや交流を図る、障害がある子どもの特別支援教育などに理解を示すこともとても大切なことだと思います。地域全体で子どもたちを育成していくという温かい雰囲気醸し出すことは、子どもたちにも間違いなく伝わることだと思います。

さて、そのような地域で生活し、教育を受けてきた子どもたちは、どのような未来があるのでしょうか。新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延で、当面の社会・経済活動は先を見通せない状況にあります。しかし、今の子どもたちが5年後、10年後、15年後に成人し、社会に出て行く世代となったときに、地域社会と関わった子どもは、コミュニケーションや社会との関わりの大切さが分かり、法令を守ることはもとより社会的規範、常識、良識、倫理的行動をとることができる社会人になっているのではないのでしょうか。

その子どもたちは全員が全員、中野区で生活するとは思いませんが、中野区に居住する子どもは、中野区の地域における自分の責任や役割を認識し、活躍してくれることと思います。また、他の地域にあっても、健全な市民として、あるいは地球市民として、社会を支える人となり、今日あるのは中野区に在住していたからだと思うのではないのでしょうか。

以上、「地域に育まれ、やがて地域を担う子どもたち」について、私の考え方を申し述べさせていただきました。渡部正治の発表を終わります。発表の機会をいただき、ありがとうございました。

区長 渡部さんは、先ほど中野生まれ中野育ちということでお話がありました。ご自分の小学校、中学校のときの体験が今に結びつい

ていると実感することはありますか。

渡 部 たくさんあります。1つは、小学校時代ですけれども、まだ友達が何人かいますけれど、そういう方たちと町おこしではないですが、盛り上げようという、そういう活動はしています。その一環が、哲学堂公園という区立公園があるのですが、そちらで毎朝、時間の許す限り1年365日、雨の日も体操をしております。今日も6時半から体操があり、6時には行っていて、皆さんと交流をしながら。ただ、中野区の方よりも新宿区の方のほうが多いという、そういうのがちょっとあるのですけれど、そういう分け隔てなく一緒にやることで輪を作っています。

また、新しい方も来られてそういう方も、高齢の方が多いのですが、来てよかった、そう思っています。ラジオ体操の話ではありますが。

区 長 子どもたちが大人たちのボランティア活動などの地域活動の姿を見ながら育つということは大事だなと思っていますがいかがですか。

渡 部 そうです。よく背中を見て育つといいますけれども、背中というよりは実際に一緒に動いてあげて、仲よくする中で、やはりお子さんというのは賢いというか、いいところを捉えています。

区 長 そうやって地域の活動、大人の活動を見てきた子どもたちは、将来地域でやはり何かをやらないといけないなと思うというのは、私も仮説としてそれはそうだなと思うのです。では、逆に、子どものときにそういうのを見てこなかった大人がたくさんいるとしたときに、そういう大人を逆に地域活動に巻き込もうとしたら、どうすればいいのですか。

渡 部 具体的に言えば、近所の方だったら挨拶をきちんとする。それから、少し打ち解けてきたら、例えば、朝早いけどラジオ体操に来ないか、あるいは、こういう地域の活動があるから、顔だけでも出してと、そういうことで巻き込むしかないのではないのでしょうか。実際にそういうことで来られた方が、ラジオ体操なのですが、3人いらっしやいます。全然何をしているか分からないようなおっかなそうなおじさんだったので、挨拶をこちらか

らすれば、向こうも大人ですから知らん顔はできない。会釈ぐらいから始まったのですが、そういった方がいらっしゃる。巻き込むことが大切だと思います。

区 長 ありがとうございます。お疲れさまでした。